

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770900258		
法人名	社会福祉法人 松籟会		
事業所名	かりゆしぬ村グループホームくつろぎ		
所在地	沖縄県名護市宇字茂佐1705-8		
自己評価作成日	平成23年7月27日	評価結果市町村受理日	平成23年10月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4770900258&amp;SCD=320&amp;PCD=47">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4770900258&amp;SCD=320&amp;PCD=47</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレト西205		
訪問調査日	平成23年8月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、静かで落ち着ける環境の中で、ご利用者がゆったり・のんびりと穏かに生活を送れるように支援しています。近隣医療機関との連携体制が整っており、ご利用者の心身状態に即した医療機関をご利用できます。同法人の有料老人ホームも隣接され緊急時等の応援・協力も図りやすくご利用者、ご家族が安心できる環境です。ご利用者一人ひとりの個性を尊重し、安心・安全・笑顔あふれるホーム作りに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、丘の上に一戸建て平屋で閑静な環境にある。玄関前には、手洗いや季節の植物が配置され、整然としている。母体法人の特別養護老人ホームや関連施設及び医療機関が近郊にあり、連携が密に取れる環境にある。昨年同法人の有料老人ホームが隣接で開設され、緊急時などの対応がより一層強化された。事業所は、母体法人主催及び独自の各種研修に積極的に参加、企画し、職員の資質向上に努めている。日常のケアにおいては、特に食事支援に重点をおき、昨年まで実施していた法人からの夕食の配食を見直し、現在は3食事業所で調理するようになった等、職員は、利用者の思いを大切にしたいケアが実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日：平成23年9月29日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念・基本方針をホーム内に掲示し職員間で共有している。ケアの振り返りを行いケアの向上に努めている。	事業所独自の理念は、「その人らしさの生活」が謳われ、自宅での生活を継続する支援を掲げた方針となっている。お互いが支え合うことを目的に、“自立”ではなくあえて、“自律”の用語で表現した内容についても、職員間で理解、共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩に出かけ近所の方と挨拶を交わしたり、行事等の参加により交流している。	法人として自治会に加入し、利用者とともに地域の運動会や敬老会に参加している。婦人会の読み聞かせボランティアや民生委員、老人会等の訪問もある。また、地域住民の見学受入や介護保険の申請、認知症の相談にもアドバイスする等、日頃から地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域の方へ認知症の理解、支援の方法を話し合い報告している。実習生の受け入れ等も積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。行政やDr、各メンバーからの情報や意見交換が行なわれており、参加メンバーも交流を楽しみにしている。	運営推進会議は、2か月に1回開催され、行政や区長、利用者、家族、医師等も参加していることが記録から確認できた。事業所から外部評価の免除や利用者状況の報告がなされ、参加医師から予防接種等医療に関する情報提供がされている。座談会形式で参加者間での意見交換もあり、会議録は玄関に備えられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には毎回出席してもらっている。他の地域密着型サービス事業所のネットワーク作りも行なわれ情報交換も行ない協力体制を築いている。	市の担当者とは日頃から連絡を密に取り、行政からは空きベット等の問い合わせや認知症実践者研修等、実習生受け入れの案内がある。事業所からは運営推進会議での連携や行事への参加等、協働の体制に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の行動を抑制しない自由に生活を送れるようなケアに取り組んでいる。日中も玄関の施錠をせず、職員の見守りを徹底している。	リスクマネジメント委員会があり、身体拘束廃止や認知症に関する勉強会等を毎月実施し理解を深めている。玄関は自由に出入りができ、車いすの利用者やいざって自由に移動し道路まで出かける利用者もいる。リスクに関する説明は、入居時や面会時に家族等と話し合いを行っている。	

沖縄県（かりゆしぬ村グループホームくつろぎ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体的、精神的虐待について正しく理解できるように勉強会を通して学んで取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について、勉強会で学んでいる。資料やパンフレット等を掲示して意識づけを行なっている。必要なご利用者がいたら支援したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の前に見学に来ていただき、ホームの雰囲気を見てその際に質問や疑問を聞き対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会代表が運営推進会議のメンバーで毎回会議に参加して意見・要望を言える機会を設けている。利用者からの要望や意見はその都度対応している。	利用者の思いは日々の生活の中で、把握するようにしている。「てびち料理を食べに行きたい」との利用者の要望に対応した事例もあるが、運営推進会議での利用者や家族等の要望等や、意見箱の活用が少ない状況にあり、また、目標達成計画の達成度も弱い状況である。	事業所として利用者や家族等の心情を察し、より多くの意見や要望を出してもらえるよう、さらに工夫して頂き、目標達成に向けた具体的な取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや業務ミーティング、日々の業務の中で職員の気づきや・意見・要望などを聞き話し合い事業所の運営に反映するように努めている。	これまでは母体法人から夕食を週3回届けてもらっていたが、「利用者に美味しく食事をしてもらいたい」との職員の意見を受け、4月からは事業所で毎食作るようになった。また、職員の勤務体制については、利用者との馴染みの関係を重視し、基本的には職員の異動はしないよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間や希望休を聞き希望に沿った勤務体制になるように対応している。個々の資格取得に向けて学びやすいような環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のレベルに合った研修に参加できるように機会を作りスキルアップに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の地域密着型サービス事業所の集まりや県のグループホーム連絡会に加盟しており、情報交換や交流を通してサービスの向上に取り組んでいる。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学時から何でも言えるような雰囲気作りをしている心身の状況や不安を受け止め安心を確保できるように馴染みの関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時から、家族の訴えや想いに耳を傾け何でも話せるような雰囲気を作り、ご家族の求めているものは何かを考え信頼関係作り努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時には、事業所として何ができるかをまず考え本人や家族の想いを確認しその時必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者それぞれの想いを汲み取り、お互いを尊重して日々、共に支え合い喜怒哀楽を共にし一緒に和やかに穏かに生活を送れるような関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診時や外出は可能な限り家族と一緒にを行うようにしている。情報を共有しご利用者を共に支えるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出やドライブで昔ながらの景色やご利用者の馴染みの場所へでかけるように努めている。定期的に自宅へ帰る利用者への支援も行なっている。	地域との関係性継続のため、利用者の住み慣れた地域や馴染みの場所にドライブがてら出かける支援を行っている。また、定期的に帰宅を実施している利用者や知人と電話や訪問を通じた関係継続がなされる等、地域社会との関係性継続や把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を職員が把握し会話などを通して入居者同士がかかわりを持てるようにしている。孤立している方には輪に入れるように橋渡しを行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も面会に伺い、ご本人や家族に声かけていつでも連絡をいただけるような関係づくりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者が何をしたいのか、日々の関わりの中で観察し表情や会話の中で思いや意向を把握するように努めている。	会話のできる利用者から「洗濯物たたみをしたい」、との希望があり本人を中心に支援している。また、「三枚肉等を食べたい」、とジェスチャーで表現する利用者の思いを会議で話し合い、訪問歯科等の協力を得ながら、食事形態の変更も計画する等、表現の弱い利用者の思いを把握するため、観察支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、入居相談時や実態調査時にご利用者、ご家族、関係者から話を聞き生活歴等の把握に努め、入居後は日々の会話を通して信頼関係を築き把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者個々の生活リズムを日々の記録や申し送りを通して理解し出来ること、出来ないことの現状を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族の思いや意見は日頃の関わりの中で情報を収集し、ご利用者の心身状態の変化を記載した日々の記録から介護計画に反映させるようにしている。	定期的にモニタリングや介護計画の見直しも実施されている。担当者会議には、利用者本人や家族等も参加し、意向を取り入れた介護計画が作成され、実施し記録されている。外出の要望のある利用者について、外出支援を介護計画に載せて支援している事例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録により、生活の様子を把握し食事量・水分量・排泄チェック表により健康管理を行ないご利用者の介護計画の見直しに活かしている。		

沖縄県（かりゆしぬ村グループホームくつろぎ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者のニーズに応じて訪問歯科診療による口腔ケア、病院受診時や外出時の送迎を行いご利用者、ご家族の負担軽減に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事等に参加したり、運営推進会議を通して地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、ご家族の希望をする病院を受診できるように入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。週1回の嘱託医のアドバイスを受けかかりつけ医との連携を図っている。	利用者は、内科や専門医等のかかりつけ医を受診している。通院時は家族等と職員が同行し、所定の情報提供書を持参している。また、週1回の嘱託医の訪問診療も行われ、かかりつけ医に情報提供し、相互に共有しながら日々の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はないが、体調変化時には速やかに、法人内の看護師に報告し指示を仰ぎ状態変化に対応できるような体制づくりができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会に伺いご利用者や、ご家族の不安を取り除くように努め、病院の相談員と連携し退院後のホームでの生活のアドバイスを頂き早期に退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や医療との連携でホーム内での看取りも取り組むことができたので、事業所ですることできないことをその都度十分説明しご本人、ご家族の希望があればこれからも取り組んでいきたい。	「利用者の重度化及び看取りの対応に係る指針」が作成され、母体法人の職員を含めた関係者間で研修を重ね、方針の統一がなされている。入居時に利用者、家族等へ指針の説明を行っているが、利用者の状況に応じて、再度説明を行い同意を得るようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、定期的にAEDや救急救命について学んでいる。これからも定期的に講習を受けて実践に活かせるように取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の職員、地域住民、消防署の協力のもと年2回避難訓練を行なっている。スプリンクラーも昨年設置している。	消防署の協力の下、年2回の訓練を実施している。事業所は誘導灯や自動火災通報等の設備も完備され、また、食品や備品の備蓄は法人で一括保管されている。地域の協力や同法人の有料老人ホームが昨年隣接され、昼夜を問わず非常時の協力体制も強化されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮しさりげないトイレ誘導や個々の気持ちに寄り添った声かけや対応を心掛けている。	利用者一人ひとりの個性を尊重し、ゆったりした時間の中で支援を行っている。特に排泄支援等の声かけや、食事中隣席の利用者の食事に手を伸ばしても、さりげない言葉かけを心掛け、プライバシーを損ねない配慮が職員間で徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの希望を伺い無理強いはしなようにご本人の意思を尊重するように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床時は、声かけしご本人が起きてくれるのを待つなど、個人のペースを大切にしている。散歩やドライブも本人の意思を確認して個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みや生活習慣に合わせて身だしなみやおしゃれに気を配っている。その人らしさを保てるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや配膳など出来ることは手伝ってもらっている。ご利用者と職員が同じテーブルを囲み和やかに楽しく食事を頂ける様な雰囲気づくりに取り組んでいる。	食材の購入から調理まで全て事業所で行っている。食事の一連の作業については、参加できる利用者が少ない現状にある。食事時間はひとりをもって、ゆっくりと介助し見守りながら、会話を楽しみ、職員も同じ献立と一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量をチェック表に記録して一日の摂取量を把握し情報を共有している。食事量や水分摂取量が不足している場合は個々に合わせ工夫している。		

沖縄県（かりゆしぬ村グループホームくつろぎ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者やご家族の希望で訪問歯科診療を行なっている。歯科医師や衛生士のアドバイスや、口腔ケアの指導も受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い出来るだけトイレで排泄してもらい排泄の自立に向けた支援を行なっている。	排泄記録表を用いて利用者の状態を把握し、トイレでの排せつが可能になった事例もある。トイレは居間から見えない位置にあり、また、シャワーも設置され、利用者のプライバシーに配慮された工夫がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食には、食物繊維の多い野菜が入ったジュージーやおいも、牛乳、ヨーグルトなどメニューを工夫して提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は特に決めてはいない。ご利用者の意向を優先にしている。入浴を拒む利用者は、言葉かけなどを工夫したり、入浴誘導は職員を変えたり無理強いはしないように支援している。	入浴は職員が多い午後の時間帯に毎日行い、要望がある時はいつでも支援できるようにしている。また、入浴を拒む利用者の場合は、部分浴等の清潔保持に努めている。同性介助を旨としているが、できない場合もあり、本人や家族等に説明し、意向を確認するようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、できるだけ体を動かし1日の生活リズムを整えるように支援している。又一人ひとりの体調や生活習慣を考慮していつでも休息ができるように昼間で休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容が把握できるように個別に服薬管理票をファイルして職員が共有できる様になっている。服用時はご本人に手渡し飲むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話の中からやりたいことや楽しみを聞き生活歴や習慣を大切に嗜好品の煙草や、コーヒーなども提供している。ご利用者の出来ることを支援し力を発揮できるような場面づくりを行なっている。		

沖縄県（かりゆしぬ村グループホームくつろぎ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望や体調に合わせて近隣の散歩やドライブ、外食なども行なっている。ご家族やご本人の希望によりご家族と定期的に外出されるご利用者に外出支援をしている。	事業所は高台にあり見晴らしがよく、涼しい時間帯に車いす利用者も近隣に外出している。月1・2回のドライブは遠出をし、海辺や花見等季節の風情を楽しむようにしている。また、利用者の希望で外食や行事等、個別ケアも実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の希望があればご家族と確認して所持して頂くが、現在の入居者には管理できる方はいないが、外出の際には自分でお金を使える機会や買い物の同行などの支援も行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望や能力に応じていつでも電話をかけたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾付けや、季節ごとの行事など季節感を取り入れ五感を刺激するように工夫している。誰でも自由に利用できるように畳間も準備している。	食堂兼居間には、円卓と応接セットやソファが設置され、一角には4帖程の畳間があり、洗濯物をたたんだり、午睡をしたりと、思い思いの場所でくつろげるようになっている。居間はガラス張り、庭の草花や景色が見渡せる。また、室内には吹き抜けがあり、採光や風通し等、工夫と配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や廊下にソファを置きくつろげるスペースを作っている。ベランダには、ベンチを準備して一人で外を眺めて過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の好みや使い慣れた物を用意してもらったり、ご利用者やご家族の意見を優先にしている。本人が落ち着け、その人らしく暮せるように支援している。	居室には、シャワー付トイレが設置されている。家具の配置や飾りつけを家族と利用者で自由に行っている。面会時用の椅子やラジオ等、家族が自由に持ち込んでいる。また、利用者の状態に応じて和室に改善する等、それぞれの部屋に工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者が安心・安全に生活を送れるように各居室はご利用者の状態に合わせて、ベットや畳にしたり、手すりの位置を工夫したり自立した生活が送れるように支援している。		